

### 運用先市場の状況

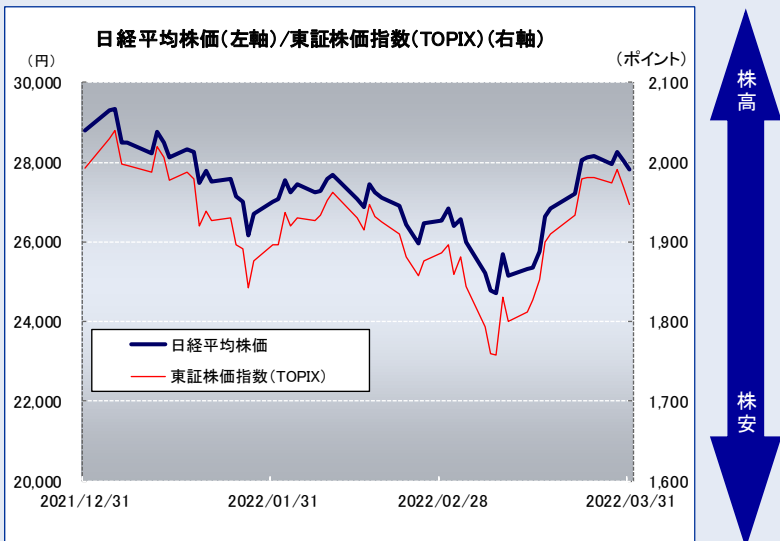
#### 国内株式市場および国内債券市場 2022年1月～3月

作成基準日 2022年3月31日

##### ○国内市場

###### ・株式市場

1～3月を通して見ると、国内株式市場は下落しました。  
 1月、株式市場は下落しました。米国の金融当局がタカ派姿勢を強めるとの思惑が強まり、下落しました。加えて、変異ウイルス感染拡大の影響に警戒感が高まる展開となったほか、米国での利上げへの警戒感やウクライナ情勢の緊迫化等もあり、軟調な展開が続きました。  
 2月も、株式市場は下落しました。月前半は、良好な企業決算や経済正常化期待などから、堅調に推移しました。しかしその後は、ロシアがウクライナに侵攻し、主要国がロシアへの経済制裁を決定したことで投資家心理が悪化し、下落しました。  
 3月、株式市場は上昇しました。月前半は、原油価格の高騰や世界的な景気懸念から、下落基調が続きました。その後は、ウクライナとロシアの停戦協議への期待や、米国の利上げなど金融政策決定内容が市場予想に近かったことによる安心感などから、円安の進行とともに株式市場は回復しました。



(出所) Bloomberg データを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

###### ・債券市場

1～3月を通して見ると、国内の長期金利(10年国債利回り)は上昇(債券価格は下落)しました。  
 1月、長期金利は上昇しました。米国金融当局のタカ派姿勢への警戒や日銀の金融緩和策修正への思惑などから、長期金利は上昇しました。  
 2月も、米国の物価指標の上振れなどを受け、長期金利は上昇しました。その後、長期金利が日銀の許容変動幅の上限に近づいた局面で、日銀が10年国債で金額無制限の指し値オペを通知し、長期金利の上昇は一服しました。  
 3月も、長期金利は上昇しました。月初は、リスク回避の動きから長期金利は低下しました。しかし、商品市況の上昇や米国の利上げなどから、長期金利は上昇しました。その後、日銀が10年国債の金額無制限の指し値オペや国債買入れオペ増額を断続的に実施し、金利上昇は一服しました。



(出所) Bloomberg データを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

運営管理機関：三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841

平日(月～金) 9:00～20:00 土日9:00～17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

- 当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。
- 当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また、今後の成果を保証・約束するものではありません。
- 当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。

### 運用先市場の状況

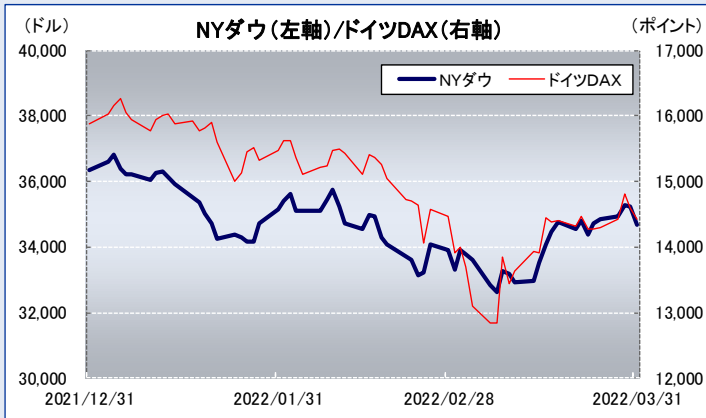
## 外国株式市場、外国債券市場および為替市場 2022年1月～3月

作成基準日 2022年3月31日

### ○外国市場

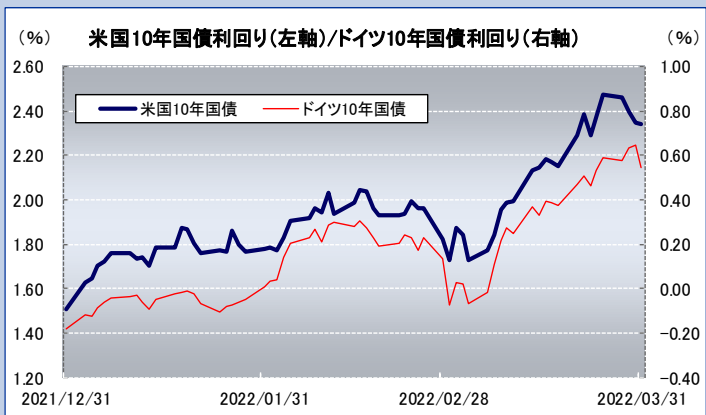
#### ・株式市場

1～3月を通して見ると、欧米の株式市場は下落しました。1月、米国市場は下落しました。長期金利の上昇を受けて利益確定の売りが強まり、下落しました。ただし、月末には良好な企業決算を好感して反発しました。2月も、米国市場は下落しました。利上げへの警戒感や、大型歳出法の成立が先延ばしとなったこと、ロシアがウクライナへ侵攻したことなどが、マイナス要因となりました。3月には、米国市場は上昇しました。月前半は、前月からの軟調な地合いを持ち越しました。月中に利上げが決定されましたが、その後、ウクライナとロシアの停戦交渉に対する期待などから上昇に転じました。特に、原油価格の上昇が一服し、株式市場の支援材料となりました。欧州市場も、概ね米国と同様に、総じて下落しました。米国に連れ安となったほか、ウクライナ情勢の影響から3月の市場の戻りが比較的小幅となりました。



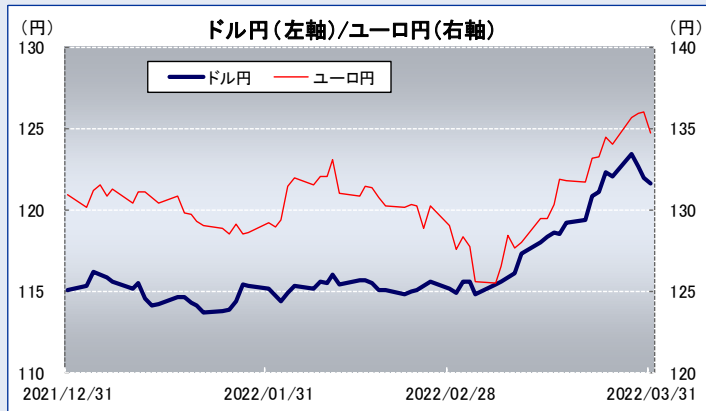
#### ・債券市場

1～3月を通して見ると、欧米の長期金利(10年国債利回り)は上昇(債券価格は下落)しました。1月、米国では長期金利が上昇しました。利上げ観測が一段と高まる中、長期金利は上昇しました。2月も、インフレ懸念や市場予想を上回る経済指標などを受けて金利が上昇しました。但し、ウクライナ情勢を巡る地政学リスクの高まりは金利低下要因となりました。3月も、米国の長期金利は上昇しました。月中に利上げが決定されたほか、インフレ抑制の為に金融引き締めが加速するとの懸念もあり、長期金利は上昇しました。ユーロ圏でも、長期金利は上昇しました。米金利の上昇や、ECB(欧州中央銀行)による金融政策の正常化が意識されたことなどを背景に長期金利が上昇しました。ウクライナ情勢の悪化から長期金利が低下する局面もありましたが、インフレ高進への懸念が根強い状況でした。



### ○為替市場

1～3月を通して見ると、米ドル、ユーロ共に対円で上昇しました。1月と2月、米ドル/円は、一進一退となりました。米金利の上昇が米ドルを支えた一方、株価の下落などリスク回避的な動きが米ドルを下押ししました。ユーロ/円は、ECB(欧州中央銀行)による金融政策正常化の前倒し観測がユーロ高要因となる一方、リスク回避的な動きがユーロ安要因となりました。3月、米ドル/円は、日米の金融政策の方向性の違いや金利差拡大観測を背景に米ドル高・円安となりました。ユーロ/円は、ECBによる金融政策正常化の前倒しやウクライナとロシアの停戦協議の進展期待などを背景に、月を通して見るとユーロ高・円安となりました。



運営管理機関：三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841

平日(月～金) 9:00～20:00 土日9:00～17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

- 当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。
- 当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また、今後の成果を保証・約束するものではありません。
- 当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。